



特定非営利活動法人 JAFSA (国際教育交流協議会)

Japan Network for International Education



2025 年度報告書

凡 例

◆団体名、法人格(財団法人、株式会社など)の記載

- ・ JAFSA 会員一覧(JAFSA HP 掲載)の表記と統一とする

◆団体の列記方法

- ・ 原則「会員種別ごと(※)団体名 50 音順」
※『団体正会員(大学)』『団体正会員(教育関連機関)』『団体賛助会員(カテゴリー別)』の順

◆個人名の記載

- ・ 原則「人名(所属機関 所属部署 肩書き)」
- ・ 所属機関、所属部署、肩書きは事業実施当時のものを記載
- ・ JAFSA 役員は「人名(所属機関 JAFSA 役職)」
- ・ 講師／講演者／参加者等すべて敬称略

目 次

1. グローバルネットワーキングに関する事業	3
1.1. NAFSA 2025 米国・サンディエゴ大会と「STUDY in JAPAN」	
1.2. EAIE 2025 スウェーデン・ヨーテボリ大会と「STUDY in JAPAN」	
1.3. APAIE 2026 香港大会と「STUDY in JAPAN」	
1.4. その他	
2. 国際教育交流の人材育成に関する事業	10
2.1. オンライン研修プログラム	
2.2. 対面研修プログラム	
2.3. ウェビナー(海外フェア振り返りウェビナー/特別ウェビナー)	
3. アウトリーチ・広報に関する事業	16
3.1. 国際教育交流に関するアウトリーチ	
3.2. 共催(特別ウェビナー除く)・協力(広報)・後援/その他	
3.3. 広報に関する事業	
3.4. その他	

JAFSA は、 「グローバルネットワーキング」・「人材育成」・「アウトリーチ」の 3本の柱を中心に活動しています。

1. グローバルネットワーキングに関する事業

JAFSAはNAFSA・EAIE・APAIEの年次大会にて、日本の高等教育の国際的プレゼンス向上と大学間ネットワーク形成を推進した。2025年度の海外フェア出展大学数は、前年度と同水準であったが、新規出展大学・機関も複数あり、引き続き、JAFSA会員からの需要を強く感じた。出展はしないものの海外フェアに参加している会員大学も多数あり、JAFSA賛助会員と共催している情報交換会(懇親会)は盛況であった。

海外フェア 出展団体内訳	大学	教育機関	日本語学校	賛助会員
	33(32)	2(1)	1(2)	2(2)

※()内は前年度実績

※ 独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)およびJAFSA事務局は除く

※ 同一団体複数大会参加の場合も1カウント

NAFSA(National Association for International Educators)

- 1948年設立。世界最大規模を誇る米国の国際教育交流団体。
- 5月下旬から6月初旬に米国の都市で開催される年次大会は、国際教育交流に携わる関係者が集まる世界最大規模の国際交流フェア。主にワークショップ・セッション・ブース出展を中心に開催。
- JAFSAは、2008年から「STUDY in JAPAN」として一部ブース出展の取りまとめを開始した。2013年度より独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)と統合して「STUDY in JAPAN」として取りまとめるに至った。
2017年度より、出展団体の取りまとめはJAFSA、総合案内はJASSO、という役割分担のもと、「STUDY in JAPAN」ブースを共同運営している。
- NAFSA会員区分を2026年より「Global Adviser」→「Global Navigators」に変更した。
※これまで、NAFSAの最上位会員区分である「Global Adviser」(世界で3団体)として日本の高等教育の発信を行ってきたが、近年頻発している年会費改定や、出展団体の負担軽減に伴う付帯メリットの変化等を踏まえ、年会費を負担しているJASSOと協議のうえ、2026年1月より会員区分を最上位から上位会員「Global Navigators(新設)」へ変更。変更に伴い、年次大会でのブース購入費の割引率が18%から11%となる。26年大会においては既に日本ブース販売済のため、ディスカウント率低下による突発的な出展団体負担増を避けるべく、26年単年のみJASSOとJAFSAにて負担する。
- 文部科学省より、「スーパーグローバル大学創生支援事業」および「大学の世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～」の採択校からの予算申請に基づき、補助費による支援を受けてきたが、今後はJAFSAにて自走することが求められている。



EAIE(European Association for International Education)

- 1989年設立。欧州の国際教育交流団体で国際教育分野の専門家からなるグローバルチームによって運営。
- EAIE年次大会は、毎年9月に欧州各地の持ち回りで、1週間程の会期で開催。約7,000人が参加するヨーロッパの国際教育交流分野では最大のものとなっている。特別講演、セッション、ワークショップ、ネットワーキングイベントのほか、ブース出展が行われ、JAFSA会員大学の中でもEAIEの存在が定着している。



APAIE(Asia-Pacific Association for International Education)

- 2004年設立。アジア太平洋地域の国際教育交流団体。毎年3月頃開催の年次大会はNAFSA(北米)、EAIE(欧州)に比べ歴史が新しく規模も小さい。当初は東アジア、東南アジア中心の地域的な団体色が濃かったが、近年は大会参加者・参加機関ともに増え、特に欧米からの参加も増大している。
- JAFSAは、2014年ソウル大会より、「STUDY in JAPAN」ブースとして出展している。



1.1. NAFSA2025 米国・サンディエゴ大会と「STUDY in JAPAN」

“Purpose, Place, and Partnership”の大会スローガンのもと、持続可能なグローバルな教育環境を目指し、地域社会そして国を越えたパートナーシップを育むことを目的とした大会となった。



JASSO (インフォブース) の様子



日本合同ブースの様子



- ・開催日:2025 年 5 月 27 日(火)~30 日(金)
- ・開催地:米国カリフォルニア州サンディエゴ市 “San Diego Convention Center”
- ・参加者:100 ケ国以上の国・地域から約 8,000 人
- ・出展数:308 ブース
- ・協 力:文部科学省
- ・後 援:在ロサンゼルス日本国総領事館、一般社団法人 日本経済団体連合会

● STUDY in JAPAN (日本合同ブース)

JAFSA は JASSO と共同で「STUDY in JAPAN(日本合同ブース)」を取りまとめた。日本合同ブースは展示会場内でも最大規模で、NAFSA Pavilion 近くの正面入口脇という視認性の高い位置に展開した。また本大会では、「観光」と「日本留学」をキーワードに、日本政府観光局(JNTO)より職員 1 名の派遣を受け、JAFSA ブースにて日本の魅力発信に協力いただいた。

NAFSA2025「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)出展団体

全22ブース、24大学+2団体+1日本語学校+2企業+JAFSA(運営)<団体名50音順>

フルブース	9大学 1団体 1日本語学校	愛知淑徳大学、関西学院大学、慶応義塾大学、国際教養大学、上智大学 千葉大学、東北大学、武蔵大学、立教大学 JIGE(Japan hub for Innovative Global Education)/関西大学 行知学園日本語学校、独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)
シェアブース	15大学 1団体 2企業	青山学院大学、神奈川大学、関西大学、近畿大学、國學院大學 国際基督教大学、東海大学、東京大学、獨協大学、名古屋外国語大学 南山大学、日本大学、法政大学、北海道大学、名城大学 森興産株式会社[JAFSAダイヤモンド賛助会員] 株式会社ICCコンサルタンツ[JAFSA賛助会員] 日本政府観光局(JNTO)※JAFSAブースにて案内

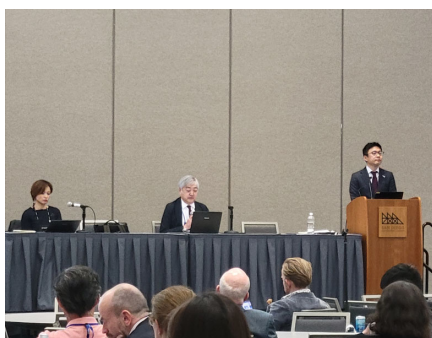
● JAFSAセッション

2011年よりNAFSAからJAFSAに対して特別枠を提供、日本の高等教育に関する発表。サンディエゴ大会では、在米国日本国大使館広報文化班参事官(教育担当)安藤 博氏がChair兼Presenterとしてセッションを取り纏め、日本における高等教育の現況や日米大学間交流のプロジェクトにつき発表が行われました。75名の参加があり、質疑応答も活発に行われ、日本の高等教育の現状を紹介する絶好の機会となった。

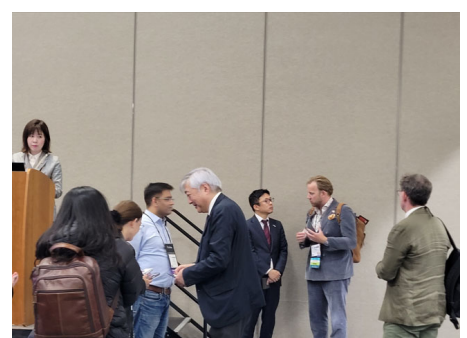
- ・実施日:2025年5月28日(水) 16:30-17:20
- ・講演名:“Behind the Scenes: Crafting Japan’s International Strategy through Collaborative Efforts”
- ・参加者:75名
- ・登壇者:Hiroshi ANDO
Counsellor (Education),Embassy of Japan in the United States of America
Keiko Ikeda, PhD
Professor
Vice-Director of the Institute for Innovative Global Education (IIGE) Kansai University
Shinnosuke Obi, Dr.-Ing.
Dean
International Center, Keio University



セッションの様子



登壇者の様子



セッション後の懇談

● 情報交換会

JAFSAダイヤモンド賛助会員のコンベラジャパン株式会社、森興産株式会社、シルバー賛助会員の株式会社早稲田大学アカデミックソリューションと共催にてブース設営準備日に情報交換会(懇親会)を実施。日本の出展大学、大会参加者を中心に100名超が参加し、来賓として在米国日本国大使館 広報文化班 参事官の安藤氏、在ロサンゼルス日本国総領事館 総務発信班 領事の石井 彩氏を迎え、有意義な情報交換の機会となった。



情報交換会の様子

1.2. EAIE2025 スウェーデン・ヨーテボリ大会と「STUDY in JAPAN」

2年連続で7,000人以上の規模となり、ブース出展もこれまで以上に国際色豊かに展開していた。特徴としては旧東欧諸国からのブースが多く、またバルト3国、そして中東レバノンからの出展があった。また、南米もコロンビア・チリ・コスタリカからのブース出展があり、地域の垣根を越えて交流を求めるパワーを感じる盛大な大会となった。

- ・開催日:2025年9月9日(火)~12日(金)
- ・開催地:スウェーデン・ヨーテボリ市 “Svenska Mässan“
- ・参加者:106か国から7,000名
- ・出展数:250ブース
- ・後 援:在スウェーデン 日本国大使館、一般社団法人 日本経済団体連合会(経団連)



日本合同ブースの様子



EAIE 要人との会談(上智大学 飯島 真里子副学長と)

● 「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)

2025 年度は、JAFSA が会員大学 15 大学を取りまとめ、「STUDY in JAPAN(日本合同ブース)」を出展した。前年度まで総合案内を担当していた JASSO からは、運営支援として職員 1 名の派遣を受けた。

EAIE2025「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)出展団体

全 12 ブース、15 大学+1 団体+JAFSA(総合案内・運営)<団体名 50 音順>

フルブース	6 大学	関西学院大学、上智大学、東北大学、千葉大学、名古屋大学、立教大学
シェアブース	9 大学 1 団体	愛知淑徳大学、神奈川大学、関西大学、国際教養大学、埼玉大学 獨協大学、名古屋外国語大学、南山大学、名城大学、関西大/JIGE

● 資料参加

他フェア同様、JAFSA ブースに、資料参加希望校の広報資料を有料にて設置。設置資料を契機に、当該大学とのパートナーシップに興味を持った海外大学に連絡先を知らせることで、オンライン打合せなどに発展させていくことが狙い。

3大学(50音順):	成蹊大学、東京大学、福岡女子大学
------------	------------------

1.3. APAIE2026 香港大会と「STUDY in JAPAN」

JAFSAは計20会員団体を取りまとめて「日本合同ブース」を出展しました。

大会参加者は、過去最高の約3,600名と、前年に開催されたインド・デリー大会に比べ大幅に増加した。

- ・開催日:2026年2月23日(月)～ 27日(金)
- ・開催地:香港 (Hong Kong Convention and Exhibition Centre)
- ・参加者:72か国から3,592名(過去最高)
- ・出展ブース数:約600ブース
- ・後援名義:在香港日本国総領事館、一般社団法人 日本経済団体連合会

● 「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)

独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)は運営には携わっていないため、大会期間中の総合案内、案内冊子(Find Your Partner)作成も含め、全て JAFSA でコーディネートしている。



JAFSA ブースにて配布 (小冊子)



事前オリエンテーションの様子



日本合同ブースの様子

APAIE2026 「STUDY in JAPAN」(日本合同ブース)出展団体

全ブース、16 大学+1団体+1 日本語学校+2 企業+JAFSA(総合案内・運営)<団体名 50 音順>

フルブース	3大学 1団体 1日本語学校 1企業	関西学院大学、中央大学、東北大学 独立行政法人 国立高等専門学校機構 行知学園日本語学校 Acumen[JAFSA 賛助会員]
シェアブース	13 大学 1企業	愛知県立大学、岡山大学、関西大学/JIGE、京都外国語大学 国際基督教大学、埼玉大学、上智大学、順天堂大学、千葉大学 帝京大学、東海大学、東京都立大学、日本大学 森興産株式会社[JAFSA ダイヤモンド賛助会員]

● 資料参加

他フェア同様、JAFSA ブースに、資料参加希望校の広報資料を有料にて設置。設置資料を契機に、当該大学とのパートナーシップに興味を持った海外大学に連絡先を知らせることで、オンライン打合せなどに発展させていくことが狙い。九州産業大学が初参加。

3大学(50音順):	九州産業大学、成蹊大学、東京大学
------------	------------------

● 海外教育フェア参加奨励金(団体正会員大学限定 1名10万円)

JAFSA では、国際交流部署の若手職員の APAIE への参加を、国際関連業務に関する「スタッフデベロップメント(SD)」と位置づけ、「参加奨励金」を支給している。受給者には「国際交流部署の若手職員として海外教育フェアに参加することで、世界の国際教育交流の現場を体験し、所属大学での業務にいかす、国際交流の課題を見つけること」が期待される。受給経験者が、JAFSA 主催研修の講師を務める等、次世代への継承の役割も果たしている。2025 年度は過去最高の 7 名が参加。

奨励金受給者	愛知学院大学 国際交流センター 荒木 旬 神奈川大学 教育・学生支援部 国際課 森 明日香 京都外国語大学 国際部 国際・留学生課 山崎 彩香 中央大学 国際センター事務室 新山 萌 北星学園大学 国際教育課 今枝 裕翔 武庫川女子大学 国際センター国際課 森 彩祐実 明治大学 国際教育事務室 岡内 宏起
--------	---



奨励金受給者 (7名)

● 情報交換会

JAFSA 賛助会員である森興産株式会社(WA. SA. Bi.)と株式会社早稲田大学アカデミックソリューション、コンペラジャパン株式会社と共催にて日本からの出展大学、参加者を中心に情報交換会(懇親会:有料)を開催。在香港日本国総領事館 首席領事 松原 一樹氏を来賓に迎え、大会前日夜に大会参加者間で親睦を深めた。28 大学約 80 名が参加。



情報交換会の様子

1.4. その他海外団体

AIEA

AIEA(Association of International Education Administrators エイ・アイ・イー・エイ)は、1982 年創立の米国の国際教育交流団体。NAFSA, EAIE, APAIE とは異なり、高等教育機関の経営や教育方針に関する意思決定者が多くメンバーになっていることが特徴。



CAEI

CAEI(Conference of the Americas on International Education)は北米・中米・南米の国際ネットワーク／大学コンソーシアム。大会は 2 年に一度、北中南米のいずれかの都市で主催され、IOHE (Inter-American Organization for Higher Education)が CAEI 大会の運営を行っている。



2. 国際教育交流の人材育成に関する事業

主催研修に関しては、これまでオンライン中心で実施してきたが、本年度は一部対面形式を再開した。対面実施により、参加者間のネットワーキングや意見交換が一層活性化し、オンラインとは異なる付加価値を提供できた。研修参加団体数は前年度の 94 大学から 105 大学となった。また、参加者数自体も前年度の 195 名から 226 名と増加した。

多様なトピックについて発表・共有いただく形式のウェビナーに関しては、大学による事例発表・情報共有を狙いとした企画が少なかったこともあり、参加大学数は前年度の 140 大学から 88 大学と大幅に減少した。団体会員との共催・協力・後援等の企画イベントは、年度を通して頻繁に行った。

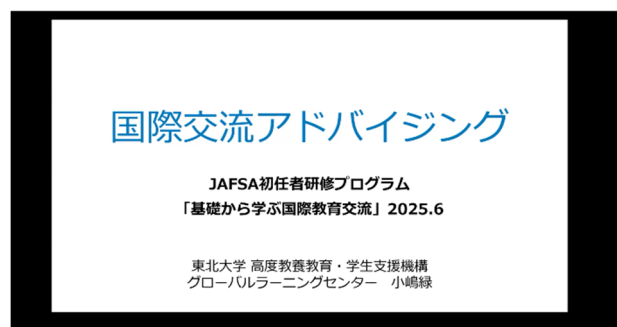
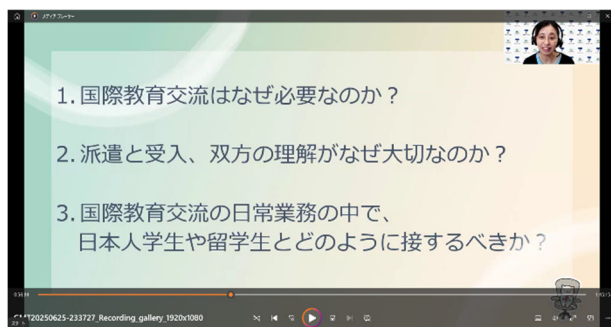
研修参加団体	大学	教育機関	賛助会員
	105(94)	2(2)	1(1)

ウェビナー参加団体	大学	教育機関	賛助会員
	88(140)	12(16)	8(11)

2.1. オンライン研修プログラム

(1)「初任者研修」～基礎から学ぶ国際教育交流～

留学生受け入れ・送り出しを含む、国際関係業務の初任者向けで、理論と実践を結びつけ、基礎力強化を目指すことが目的。事前課題やグループワークを取り入れた、参加型の研修。全国から参加する会員間ネットワーク構築の場ともなっている。主な対象は、留学生受け入れ・送り出しを含む、国際教育交流分野の担当になり 3 年以内の教職員。年間 4 回実施(半日コース X 2 日:定員 20 名)。



研修中の様子 (第 1 部・第 4 部)

・講 師: 巽 洋子 (名古屋大学 グローバルマルチキャンパス推進機構 特任助教)

葉佐 賢太郎 (関西学院大学 王子キャンパス開設準備室 職員)

岡本 大夢 (昭和女子大学 国際交流センター 係長)

小嶋 緑 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 特任助教)

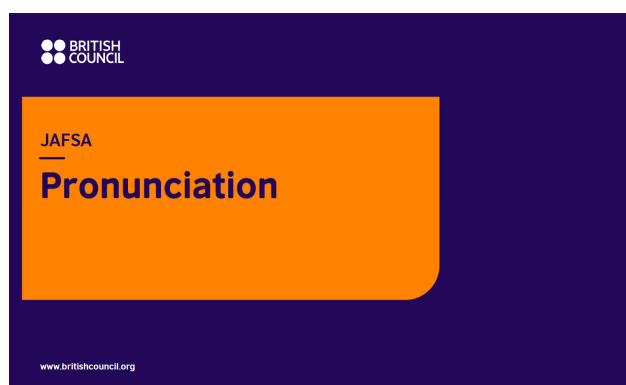
実施回	実施日	参加者
第1回	5 月 15 日(木)・16 日(金)	20 名/17 団体会員 (15 大学、1 教育機関、1 賛助会員)

第 2 回	6 月 26 日(木)・27 日(金)	20 名/18 団体会員 (15 大学、1 教育機関、1 賛助会員)
第 3 回	7 月 31 日(木)・8 月 1 日(金)	20 名/19 団体会員(18 大学、1 賛助会員)
第 5 回	12 月 11 日(木)・12 日(金)	20 名/17 団体会員(17 大学)

(2)「実践英語研修」～Practical English for International Office Staff～

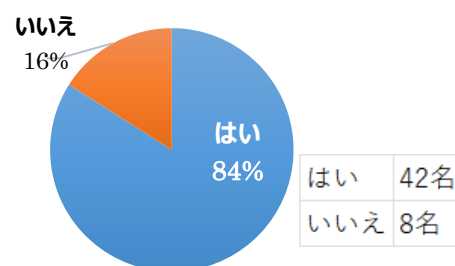
ブリティッシュ・カウンシルが JAFSA と協議の上で企画する、国際業務担当者向けの英語研修。グループワーク中心で、国際業務に直結した実践的な研修内容となっている。英語教授法の資格を持ったネイティブ講師が担当し、年間 5 回実施(終日コース:定員 14 名)

全 5 回/テーマ	レベル目安	実施日	参加者
Introductory Business English 「ビジネス英語-初心者向け」	[準中級～中級]	5 月 22 日(木)	14 名 /14 団体会員 (13 大学)
Supporting Students Face-to-Face, by E-mail and on the Telephone「学生へのサポート(対面・メール・電話)」	[中級～上級]	7 月 10 日(木)	13 名 /12 団体会員 (12 大学)
Presentations: Your University 「大学紹介とプレゼンテーション」	[中級～上級]	10 月 2 日(木)	7 名 /7 団体会員 (7 大学)
Pronunciation and Global Englishes 「発音と Global Englishes」	[中級上～上級]	11 月 13 日(木)	13 名 /12 団体会員 (12 大学)
Business Speaking 「ビジネススピーキング大学紹介、ネゴシエーション・クレーム対応」	[中級～上級]	12 月 4 日(木)	14 名 /13 団体会員 (13 大学)



ブリティッシュ・カウンシル作成教材

研修参加によって 英語力・スキルが上がったと思いますか



参加者アンケート (8 割以上が効果を実感)

(3) 多文化共修研修(企画・協力:講師陣)

「多様なステークホルダーとつくる多文化共修:地域や企業との共創的関係を築き、ともに成長するために」多文化共修研修では、多様なステークホルダーとの連携に着目し、多文化共修に関する話題提供により基礎的な理解を深めた後、正課および課外学習活動の実践例を含めながら話題提供とグループワークを実施した。また、学びの時間を共有することで、研修後も参加者間でそれぞれの国際教育の現場で役立てていけるようなネットワークを築くことも、本研修のもう一つの目標であった。(終日コース:定員 20 名)

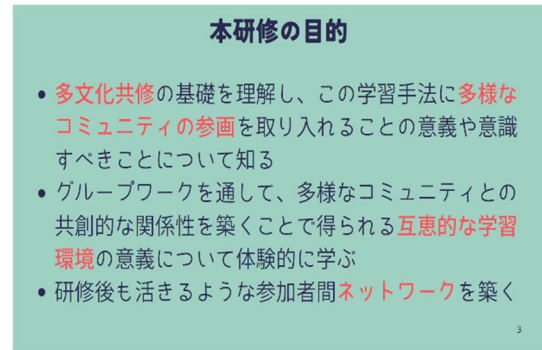
・実施日:2025 年 11 月 28 日(金) 10:00-16:00

・講 師:平井 達也(明治大学 国際日本学部 教授)

米澤 由香子(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 准教授)

秋庭 裕子(東京学芸大学 大学教育研究基盤センター機構 国際交流/留学生センター 准教授)

・参加者:17 名 /11 団体会員 (11 大学)



研修使用スライド (研修目的)

2.2. 対面研修プログラム

(1)「初任者研修」～基礎から学ぶ国際教育交流～

前述のオンライン研修プログラム、第 4 回初任者研修を対面にて同講師陣で実施した(協力:明治大学)。
(終日コース:定員 40 名)

実施回	実施日	参加者
第 4 回	10 月 22 日(水)	40 名/31 団体会員(31 大学)



研修の様子

(2)大学国際化マネジメント研修(企画・協力:講師陣)

大学国際化は大学運営と不可分であり、国際アドミッション、留学生リクルーティング、派遣留学、カリキュラムの国際化、国際共同研究、多様性・包摂性を踏まえたキャンパスづくりなど、多岐にわたる取組を学内の複数組織が連携して進めることが重要である。本研修では、「複雑化・高度化する大学国際化を担う人材の育成と活用」をテーマに、各大学複数部署からの参加者によるグループワークを通じて、大学のミッションや特徴に基づいた実践的な議論を行った。

【協力・講師】(敬称略)

大学国際担当上級管理職に関する実証的研究チーム

科学研究費助成事業(基盤研究(C))

「大学国際化マネジメントにおける上級管理職のキャリア形成に関する国際比較研究」

米澤 由香子(東北大学 高度教養教育・学生支援機構)

太田 浩 (一橋大学 全学共通教育センター)

堀江 未来 (立命館大学 グローバル教養学部)

佐藤 万知 (京都大学 教育学研究科)

・実施日:2025 年 12 月 20 日(土) 10:00-16:00

・参加者:29 名 /8団体会員(8大学) 追手門学院大学、関西学院大学、九州大学、慶應義塾大学
国際基督教大学、帝京大学、長岡技術科学大学、長崎純心大学



研修中の様子

◆ 会員大学特典(研修参加無料枠)利用状況

学生数に応じて会員大学に提供している研修参加無料枠の数および使用状況は以下のとおり。

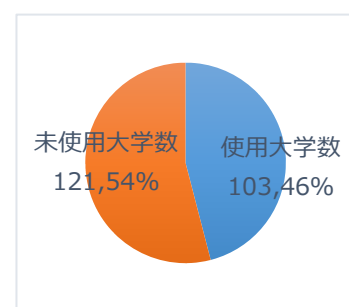
25 年度は、無料枠数を拡大したことにより、利用大学数が前年度(92 校)に比べ増加した(103 校)。

また使用人数に関しては、168 名となり前年度の 122 名を大きく上回った。

(研修参加無料枠提供団体数 224 使用団体数 103)

【研修参加無料枠利用状況】

学生数	無料枠	利用団体数/対象団体数
20,000 名以上	年度内 4 回	15/20(75%)
10,000~19,999 名	年度内 3 回	17/36(47%)
1,000~9,999 名	年度内 2 回	70/161(43%)
500~999 名	年度内 1 回	1/7(14%)
500 名未満	なし	—/7(0%)



2.3. ウェビナー(海外フェア振り返りウェビナー/特別ウェビナー)

海外フェア出展団体から大会で得た効果・反省点等を発表。海外フェア参加経験のない大学を後押しする狙いの「海外フェア振り返りウェビナー」と、会員ニーズに基づいたテーマを取り上げた「特別ウェビナー」と計7回実施(共催含む)。

「海外フェア振り返りウェビナー」

(1) APAIE 2025 インド・デリー大会振り返りウェビナー

実施日	2025年7月3日(木) 14:00-14:45
参加者	56名(29大学、3教育関連機関、3賛助会員)
登壇者	東京大学 グローバル教育センター 特任研究員 貴船 美波 横浜国立大学 学務部・国際戦略部 グローバル推進課 留学交流係 北村 梓紗

(2) NAFSA 2025 米国・サンディエゴ大会振り返りウェビナー

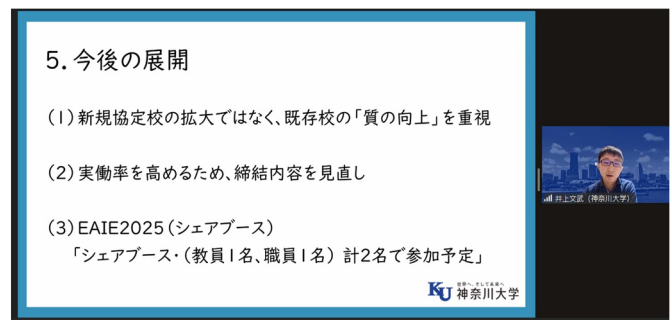
実施日	2025年9月1日(月) 14:00-14:45
参加者	48名(28大学、2教育関連機関、5賛助会員、1JAFSA フレンズ)
登壇者	神奈川大学 教育・学生支援部 国際課 Study Abroad Coordinator 井上 文武 名城大学 国際化推進センター 課長 菱田 圭祐

(3) EAIE 2025 スウェーデン・ヨーテボリ大会振り返りウェビナー

実施日	2025年11月25日(火) 14:00-14:45
参加者	54名(27大学、3教育関連機関、6賛助会員、2JAFSA フレンズ)
登壇者	愛知淑徳大学 国際交流センター センター長 教授 樗木 勇作 埼玉大学 国際本部・人文社会科学部(教養学部)教授 長沢 誠



EAIE 振り返りウェビナー (埼玉大学)



NAFSA 振り返りウェビナー (神奈川大学)

「特別ウェビナー」

(1) 「香港の最新動向および留学トレンドについて」(香港貿易発展局共催)

2025 年度新たに JAFSA に加盟した香港貿易発展局から香港の社会・経済の最新動向、教育制度、ならびに留学トレンドについて紹介いただいた(APAIE2026 大会は香港で開催)。

実施日	2025 年8月 25 日(月) 14:00-15:30
参加者	45 名(28 大学、1 在日公館、1 日本語学校、3 賛助会員、1 JAFSA フレンズ)
登壇者	ベンジャミン・ヤウ (香港貿易発展局 日本首席代表) 伊東 正裕 (香港貿易発展局 東京事務所 所長) 焦 愛希 (香港貿易発展局 マーケティング・アシスタント)



ウェビナーの様子 (香港貿易発展局)

(2) 「令和時代の留学生ビジネスと国際貢献、人材獲得のあり方」

JAFSA 団体正会員である行知学園日本語学校より、「地域課題と留学生の受け入れ」「新時代の留学の意義と日本の高等教育機関が目指すもの」に焦点を当て、「令和時代における留学生の意義」と「持続可能な獲得・育成モデル」について、最新データや国内外の事例をもとに多角的に考察し、今後の戦略のヒントを提供いただいた。

実施日	2025 年 7 月 29 日(火) 15:00-15:45
参加者	50 名(38 大学、5 教育関連機関、2 賛助会員、3 JAFSA フレンズ)
登壇者	楊 舸(ヨウ・ガ)(行知学園日本語学校 代表取締役)

(3) JAFSAx 漢検共催ウェビナー『外国人材の日本語能力育成』～大学における「BJT」活用事例報告～

日本企業への就職を志す外国人留学生が増加する中、企業現場で求められる実践的な日本語運用能力をどのように育成・評価するかが、大学にとって重要な課題となっているため、留学生のビジネス日本語能力を客観的に測定する手段として、「BJT ビジネス日本語能力テスト」を活用している大学からの声を発信いただいた。

実施日	2026 年 3 月 11 日(水) 15:00-16:00
参加者	45 名(25 大学、2 日本語学校、1 賛助会員、1 JAFSA フレンズ)
登壇者	公益財団法人 日本漢字能力検定協会 山下 誠矢 (日本経済大学 経営学部 経営学科 准教授)※インタビュー動画

3. アウトリーチ・広報に関する事業

3.1. 国際教育交流に関するアウトリーチ

アウトリーチ・広報事業については、例年の取組を着実に継続しつつ、2023年に発足した事業委員会との連携を軸に、大学経営層を意識した国際交流の位置づけ強化、政策提言活動、外部団体との協働など、質的な深化を伴う活動を展開した。また、JAFSA事務局においては、会員間のネットワーキング形成および情報交換を支えるメーリングリストサービスの運営・管理を引き続き強化し、情報の行き違いや漏れが生じないよう、体制整備と運用改善を図った。

(1)JAFSA 事業委員会 - 活動報告

JAFSA 事業委員会(事業委員長:池野理事)では、これまで、大学の国際化推進を支援することを基本方針として活動を展開してきた。

その一環として、2025 年 12 月には人事院担当者を招き、「女性の社会進出と国家公務員試験の新たな展開」をテーマに、大学関係者を対象とした講演を実施した(下記詳細)。

「女子学生の社会進出と国家公務員試験 -SDGs 目標と語学力を活かす新しいキャリアパス-」

(特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会 JCSOS 共催、JAFSA 事業委員会企画)

本ウェビナーでは、女性のキャリア形成および社会進出を支援する大学教職員を対象に、女子学生がより積極的に国家公務員試験へ挑戦するための支援のあり方について検討した。

当日は、人事院より最新の施策や実績についての説明が行われるとともに、大学現場における具体的な取組事例を交えながら、女子学生へのキャリア支援および公務員志望促進に資する知見が共有された。

実施日	2025 年 12 月 9 日(火) 14:00-15:15
参加者	25 名 (16 大学、2 教育関連機関)
登壇者	平野 貴也 (人事院 人材局企画課 課長補佐) 福林 直 (お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 講師)

(2)「大学の国際化促進フォーラム」の正会員として

「大学の国際化促進フォーラム」は、2021 年に発足。日本の大学の国際化をオールジャパンで促進する大学の主体的な活動の場として、SGU 採択校を中心に、世界展開力採択校及び希望する大学・機関等が会員となり、文部科学省等関係機関とも連携しつつ、大学の国際化に関わる取組みや研究の実施・共有・展開、情報の提供・共有を行う。JAFSA は 2021 年度に正会員として入会。

(3)「JPN-COIL 協議会」の賛助会員として

「JPN-COIL 協議会」は、2018 年に発足。「COIL を始めとした次世代の国際連携教育手法を活用した双方向交流プログラムの構築及び運営にあたり、国内外の高等教育機関と連携し、相互に教育技術や質の向上のための諸事業を展開することにより、世界の架け橋となる人材育成に寄与すること」を目的としている。関西大学(JAFSA 団体理事)が事務局を担っている。JAFSA は 2021 年度に正会員として入会。

(4) 「IIGE(Institute for Innovative Global Education)」の事業活動協力

IIGE は「グローバル・キャリアマインドを培う COIL Plus プログラム」グローバル教育イノベーション推進機構(IIGE)として、関西大学が 2018 年に設置。高等教育の質の保証を図りながら、米国の大学との間で COIL 型教育を活用しつつ、日本人学生の海外留学や外国人学生の積極的受入を伴う教育連携プログラムを補助する。JAFSA は 2021 年度に IIGE と MOA を締結。

3.2. 共催(特別ウェビナー除く)・協力(広報)・後援/その他

団体会員(正会員・賛助会員)による各種フェア・プロジェクトについては、事業内容や JAFSA の関与の深度に応じて、「共催」「協力(広報)」「後援」等の形で柔軟に対応した。

(1) 共催(特別ウェビナー除く)

JAFSA×大学生協中国・四国事業連合「第 1 回 中国四国地区 大学・大学生協 留学セミナー」

共 催	特定非営利活動法人 JAFSA(国際教育交流協議会) 大学生協中国・四国事業連合 [JAFSA 団体正会員]
実 施 日	2025 年 6 月 26 日
講 師	近藤 祐一
内 容	中国四国地区の大学生協のある 10 大学の教職員・大学生協職員 25 名を対象に これからの教職員に必要なマインドを中心に講演。

(2) 協力(広報)

① 2025 日本留学・就職・地域活性フェア in Taipei

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体正会員]
実 施 日	2025 年 4 月 19 日-20 日

② ICEF ～国内高等機関の留学生数拡大と多様化に向けた「改革への扉」ウェビナー

主 催	ICEF GmbH [プラチナ賛助会員]
実 施 日	2025 年 7 月 3 日

③ 2025 日本留学・就職・地域活性フェア in Indonesia

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体正会員]
実 施 日	2025 年 7 月 19 日-20 日

④ ICEF 日韓特別ウェビナー「日韓高等教育機関の事例から探る」

主 催	ICEF GmbH [プラチナ賛助会員]
実 施 日	2025 年 11 月 26 日

(3) 後援

① BJT ビジネス日本語能力テスト

主 催	公益財団法人 日本漢字能力検定協会 [団体正会員]
-----	---------------------------

実 施 日	2025 年度(通年)
-------	-------------

② 欧州留学フェア 2025

主 催	駐日欧州連合代表部
共 催	ドイツ学術交流会(DAAD)[団体正会員]、法政大学、関西大学 [団体正会員]
実 施 日	2025 年 6 月 14 日-15 日

③ 2025 年 第 79 回定例セミナー(JCSOS)

主 催	特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会 [団体正会員]
実 施 日	2025 年 7 月 4 日

④ 第八回「行知学園杯」全国日本語作文コンテスト

主 催	行知学園日本語学校 [団体正会員]
実 施 日	2025 年 9 月 22 日～11 月

⑤ 2025 年度 第 80 回 JCSOS 定例セミナー

主 催	特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)[団体正会員]
実 施 日	2025 年 11 月 14 日

⑥ 2025 年度 JCSOS 北陸信越地区セミナー 海外危機管理ワークショップ

主 催	特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)[団体正会員]
実 施 日	2025 年 11 月 21 日

⑦ 留学生教育研究会「外国人人材と高等教育の役割～ポスト受入れ留学生 40 万人～」

主 催	一般社団法人 国際人流振興協会 [団体正会員]
実 施 日	2025 年 12 月 4 日

⑧ JAOS 留学フェア 2026

主 催	一般社団法人 海外留学協議会(JAOS) [団体正会員]
実 施 日	2026 年 3 月 20 日

(4) その他

● 「留学生担当教職員研修会」への講師紹介

主 催	公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会
内 容	「留学生のためのメンタルヘルスケア」
講 師	一橋大学 保健センター 障害学生支援室 特任准教授 柘植 道子
実 施 日	2025 年 12 月 18 日

● 2025 年国際教育夏季研究大会(SIIEJ2025)

主 催	一般社団法人 国際教育研究コンソーシアム (RECSIE)
実 施 日	2025 年 8 月 6 日-7 日
出 展	本研究大会スポンサーとして両日ブース出展

● Czech Japanese Cooperation in Higher Education Meetings and Networking Reception

主 催	DZS (Czech National Agency for International Education and Research)
内 容	Czech Japanese Cooperation in Higher Education Meetings and Networking Reception
実 施 日	2025 年 7 月 25 日
協 力 挨 拶	・JAFSA 会員大学へのイベント周知協力 ・JAFSA 副会長校 関西学院大学 副学長 国際連携機構長 教授 成田 静香



JAFSA 副会長校 関西学院大学 成田 静香副学長

● 「日米姉妹都市サミット」へのセッションパネリスト紹介

主 催	Sister Cities International(SCI／全米国際姉妹都市協会)
内 容	「エキスパートパネル:高等教育分野でのコラボレーション展望」
実 施 日	2025 年 9 月 17 日
登 壇	大阪大学 国際機構 国際教育交流センター 教授 近藤 佐知彦(JAFSA 監事)



JAFSA 監事 大阪大学 近藤 佐知彦教授 (右端)

3.3. 広報に関する事業

(1)2024 年度年次報告書の作成および配布

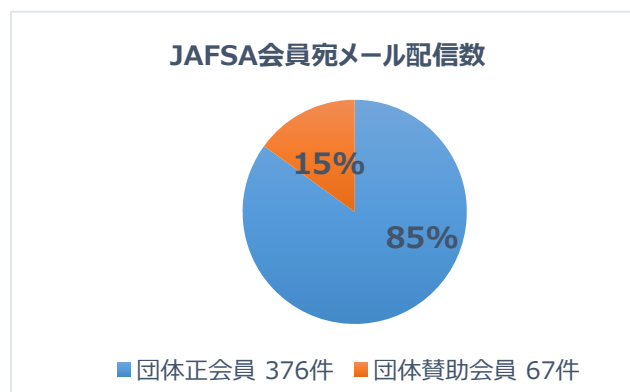
2025 年 8 月作成済。ダウンロード入手・閲覧のみとしている(HP 掲載)。

(2)メーリングリストおよびウェブサイト運営

メーリングリスト運営・管理

- 団体・個人会員登録アドレス数(部署アドレス含む):約 950 件 推定読者数:約 4,500 名
 - ① [jafsa-station](団体正会員からの情報発信・イベント告知・採用案内)
 - 2025 年度年間配信数:376 件(利用団体数 82/284 団体 28%)
 - 会員からの発信後に、事務局より受理報告を行う等運用体制の見直しをした
 - 配信数上位団体は次のとおり(大学ではなく、在日公館・教育機関からの配信が多い)
 - ② [jafsa-station](団体賛助会員からの情報発信・イベント告知)
 - 2025 年度年間配信数: 67 件(利用企業数 21/46 企業 45%)
- ※団体賛助会員の情報は SBP(ソーシャル・ビジネス・パートナーズ)ニュースとして JAFSA 事務局より配信

団体名	配信数
1. ICC インターナショナル・コミュニケーションズ・カウンシル	32
2. ETS Japan 合同会社	21
3. 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構	18
4. ドイツ学術交流会 東京事務所	17
5. 武蔵大学	14
6. 大阪学院大学、独立行政法人 日本学生支援機構	12
8. アメリカ大使館	11
9. 東洋大学、Campus France-フランス政府留学局-日本支局、一般社団法人 日本青少年育成協会	10
12. カナダ大使館、ブリティッシュ・カウンシル	9
14. 東京大学、一般社団法人 JAOS 海外留学協議会、特定非営利活動法人 日中留学推進機構	7



③ [jafsa-office] (配信専用ソフトを使用し、事務局より配信)

---- 2025 年度年間配信数: 約 157 件(研修案内・イベント告知・海外フェア案内等)

---- 海外大学からの要望、非営利機関からの情報を会員大学担当者に積極的に配信

- － Educational Credential Evaluators からの案内
- － 駐日マルタ共和国大使館主催「マルタ観光・教育セミナー大阪」のご案内
- － Kristiania University of Applied Sciences(ノルウェー)からのご案内(提携希望)
- － Bennett University(インド)から協定校についてのご案内(提携希望)
- － University of Inland Norway(ノルウェー)からのご案内(提携希望)
- － Sonoran Institute of Technology(メキシコ)からのご案内(提携希望)
- － チェコ高等教育機関との面会・交流会に関するご案内
- － Tokat Gaziosmanpaşa University(トルコ)からのご案内(提携希望)
- － Bishop's University(カナダ)からのご案内(提携希望)
- － University of the Fraser Valley(カナダ)からサマープログラムのご案内(提携希望)

- 事業運営用(NAFSA 出展団体用、EAIE 出展団体用、APAIE 出展団体用、理事会用等)
会員および関係機関間の情報共有を支える重要な基盤として継続的に活用されている。

ウェブサイトの運営

イベント・研修開催案内・実施報告など新着情報を中心に内容を掲載し、アクセス増加に努めた。

3.4. その他

(1) JAFSA 団体会員のサービス活用状況表

団体会員を対象に JAFSA が提供する様々な機会、サービスの活用状況の表を作成・管理。活用状況を事務局内で共有。活動状況に応じて会員大学を訪問、イベント、研修参加を促すなど、JAFSA 活動への積極的な関わりを働きかけた。サービス(機会)活用状況項目は、以下

- 研修(12 回実施)
- 海外フェア(3 回出展・2 回資料参加・2 回情報交換会実施)
- ウェビナー(7 回実施)
- JAFSA メーリングリストへの投稿 等([jafsa-station]への投稿等)

(2) 年会費(見積書・請求書)発行方法変更

これまで会員大学には、11 月に年会費見積書、3 月に年会費請求書を郵送発送してきたが、本年度からメールによる一斉配信(PDF 形式ダウンロード)に切り替えを行った。

(3) 正会員および賛助会員に関する不正通報への対応ガイドライン作成

団体正会員、賛助会員に対して外部より不正通報が事務局に寄せられたことを受け、8 月に「対応ガイドライン」を作成した。



特定非営利活動法人JAFSA
(国際教育交流協議会)

Japan Network for International Education

2025年度報告書

<https://www.jafsa.org>